

市川市芸術祭
第327回 市響

交響楽の午後

テューバ独奏：^{チョウ}趙 ^{ホウ}放
〈市川市文化会館新人演奏会最優秀賞受賞者〉

指揮：森口真司

管弦楽：市川交響楽団

2007

平成19年7月15日 日

13:30 開場 14:00 開演

市川市文化会館

(JR 本八幡駅下車)

主催：市川市 市川交響楽団協会
後援：千葉県交響楽団協会
協賛：ヤマザキ製パン(株) (株)全日警

お問合せ：市川交響楽団協会 tel. 047-337-6812 (桑村方)
市響メールアドレス ichikyo@plum.ocn.ne.jp
市響ホームページ <http://www33.ocn.ne.jp/~ichikyo/>



本日のプログラム

スメタナ	連作交響詩「我が祖国」より「ボヘミアの森と牧場から」
ヴォーン・ウィリアムス	チューバ協奏曲
*	
ベートーヴェン	交響曲第3番「英雄」

チューバソロ

趙放 (ちょう・ほう)

1984年中国ハルビン市出身。13歳からチューバを始める。現在東京芸術大学音楽学部4年に在学中。これまでに市川市文化会館新人オーディションにて管楽器部門最優秀。第6回大阪国際コンクールアンサンブル部門にて第4位、及びエスポワール賞。中国大使館主催国際コンクールアンサンブル部門にて1、2位なしの第3位を受賞。チューバを稲川榮一氏に師事。



指揮

森口真司 (もりぐち・しんじ)

大阪府出身。京都大学文学部在籍中より指揮を田中良和氏に師事。1989年東京芸術大学音楽学部指揮科に入学。1995年同大学大学院修士課程修了。在学中に指揮法を遠藤雅古、フランシス・トラヴィス、若杉弘、岩城宏之の各氏に師事する。1995年プラハの春国際音楽コンクール指揮部門に於いて第3位受賞(1位なし)。同時にプラハの春国際音楽祭に出演しプラハ放送交響楽団を指揮、その模様は東京FMで放送された。以降、東京フィルハーモニー交響楽団、東京都交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、札幌交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、広島交響楽団など全国各地のオーケストラに客演する。

また岩城宏之氏に認められ、2003年から2年間オーケストラ・アンサンブル金沢の専属指揮者を務めた。在任中は定期公演、オーストリア・ベルギー公演、七尾市定期公演、邦楽とのジョイントコンサート(石川県立音楽堂委嘱作品、多田栄一作曲「時の果てまで」初演)、テレビ金沢開局15周年記念演奏会等、数多くの重要な演奏会で成功を収めた。共演したソリストも、堀米ゆず子、リディア・バイチュ(ヴァイオリン)、ルドヴィート・カンタ(チェロ)、崔岩光(ソプラノ)、森山良子、加藤登紀子、山本邦山(尺八 人間国宝)など多彩を極める。

吹奏楽の分野では、東京佼成ウインドオーケストラに度々客演し、1997年サントリーホールにおける演奏はCD「吹楽Ⅲ」として発売されている。1998、2001年には吹奏楽コンクール全国大会の審査員を務めた。

近年は合唱指揮者としての活動もめざましく、2002年より東京混声合唱団コンダクター・イン・レジデンスを務めるほか、NHK交響楽団定期公演マーラー「復活」、東京都交響楽団「第九」、東京交響楽団「椿姫」、東京シティフィル「ドイツオペラの夕べ」等の合唱指揮者として公演の成功に貢献した。また二期会、新国立劇場を中心に60以上のオペラ公演に携わり、特に最近では二期会公演ヤナーチェク「イエヌファ」、ワーグナー「さまよえるオランダ人」、モーツァルト「皇帝ティトゥスの慈悲」、リヒャルト・シュトラウス「ダナエの愛」「ダフネ」(いずれも日本初演)、関西二期会ベッリーニ「ノルマ」などの合唱指揮者として絶賛され、日本のオペラ界に欠かすことのできない存在として極めて高い評価を受けている。本年は10月に大田区民オペラ「ノルマ」(タイトルロールに林康子氏)、11月にモーツァルト劇場「りんご娘」(オフエンバック作曲、本邦初演)を指揮する予定。また東京芸術大学、くらしき作陽大学、二期会オペラスタジオ講師として後進の指導にもあたっている。



管弦楽

市川交響楽団 (いちかわこうきょうがくだん)

平成18年に創立55周年を迎えたアマチュアとしては全国有数の伝統を持つオーケストラ。

メンバーは現在100余名で年齢構成は20代から70代までの幅広い層にわたり、職業も会社員、教員、主婦など多彩。地元市川市での演奏会を中心に全国各地での文化行事やオーケストラ・フェスティバル等にもしばしば招かれ演奏を披露している。また、著名な音楽家との共演も数多く経験しているほか、特に地元ゆかりの音楽家との共演にも力を注ぎ、地域の音楽芸術の振興に多大な貢献をしている。

市川交響楽団は市川混声合唱団、市川交響吹奏楽団、行徳混声合唱団、市響ジュニアオーケストラの各団体とで構成する市川交響楽団協会の中核として“クラシック音楽をより多くの市民に楽しんでもらおう”をモットーに常に積極的な活動を展開している。

スメタナ / 「ボヘミアの森と牧場から」 連作交響詩「我が祖国」より

名曲です。「我が祖国」に含まれる「モルダウ」の影にかくれてはいますが、初めて聴いたときから、曲のスケールの大きさと、親しみやすいメロディにみなさんもきっと心打たれるでしょう。

スメタナは、ビールの醸造技師の息子として生まれました。趣味で音楽を愛好する家庭であったと記録にはあります。プラハで音楽を学び、作曲家リストから資金援助を受けチェコで音楽学校を設立し、チェコ音楽の開祖と言われています。チェコの国民性を強く出した曲を数多く作曲し、ほかの代表作にはチェコ語で書かれた歌劇『売られた花嫁』があります。同じチェコの作曲家ドヴォルザークはかれの影響を大きく受けています。これ数式で表すと、

$$\frac{\text{スメタナ} + \text{ブラームス}}{2} + \text{鉄道マニア} = \text{ドヴォルザーク}$$

という感じでしょうか。(笑)

連作交響詩「我が祖国」は1874年、病で耳が聞こえなくなってから作曲されたもので、6曲の交響詩によりできています。当時のチェコはオーストリア・ハンガリー帝国の支配下にあり、母国語の使用さえ禁じられていた時代で、この連作交響詩のすべてにスメタナの強い愛国心が感じられます。有名な「モルダウ」は第2曲目、この「ボヘミアの森と牧場から」はその第4曲目です。ボヘミアの大自然の描写とそこに暮らす農民たちの歌や踊りが満載。大自然の景色、農民たちの踊る様を想像しながらお聴きください。

ヴォーン・ウィリアムス / テューバ協奏曲

名曲です。テューバ吹きでなくても必聴の名曲で、決して多く演奏される曲ではないので、今日この名曲をライブで聴くことができる皆さんはとってもラッキーです。

テューバは、金管楽器の中では最も大きく、最も低い音域を担当する楽器ですが、この言葉は元々ラテン語で「管」という意味で、旧約聖書にも記載されています。ただ当時は最後の審判などの「ラッパ」を指すもので、低音金管楽器を指すのは19世紀になってからのことだそうです。

作曲家ヴォーン・ウィリアムスは19世紀後半から20世紀半ばのイギリス人です。ロンドン王立音楽大学で作曲を学び、『惑星』（ご存知「ジュピター」の入っている組曲）で有名な作曲家ホルストと親友でした。民謡の採集を通して生まれた田園風景をイメージさせる牧歌的な作風はイギリス人のみならず、私たち日本人にも多くの共感が得られる音楽だと思います。代表作は市響でも以前取り上げた「グリーンズリーヴスによる幻想曲」のほか9曲ある交響曲が有名で、変わったところではハーモニカ協奏曲も残しています。蛇足ですが名前のヴォーン・ウィリアムスはフルネームではなく、これで苗字です。

このテューバ協奏曲は81歳のときの作品で、ロンドン交響楽団に捧げられたものです。早い—ゆっくり—早い の3楽章形式。第2楽章は絶品で、今回ソロを吹いたただく趙さんはこのように語っています。「ヴォーン・ウィリアムスの数ある楽曲の中で特に美しいメロディを有するのがこのRomanzaです。情感、愛情に満ち溢れた旋律は、テューバの低音により、一層美しさが引き立てられ、きっとテューバの音を聴いた事がない方でも親近感を持てると思います。」

ベートーヴェン / 交響曲第3番「英雄」

名曲です。いわずと知れた名曲中の名曲で、ベートーヴェンは1770年12月16日（実は私と同じ誕生日）ドイツのボンに生まれた、きっと世界でもっとも有名な作曲家でしょう。

この英雄交響曲が書かれるまでのベートーヴェンの人生はすさまじいものでした。10代のとき当時人気絶頂憧れの天才作曲家モーツァルトと念願の対面をして弟子入りを約束されますが、呑みだくれの父親と幼い弟たちの生活費を稼ぐために弟子入りを断念。天才としては遅すぎる21歳でやっとウィーンデビュー。ピアノの即興演奏で人気を得、ハイドゥンに作曲を師事しますがそれつかの間、20代後半より難聴が徐々に悪化、32歳では自殺を考えるまでになります。「ハイリゲンシュタットの遺書」はそのときのものです、しかしこの「遺書」を書くことでベートーヴェンは自らの人生に正面から立ち向かい、音楽に今までにない精神性を送り込むことになります。

事実この「ハイリゲンシュタットの遺書」の前と後とでベートーヴェンの作風は大きく変わり、これ以降ベートーヴェンは決して娯楽音楽などではない芸術的傑作を書き続けます。これが作家ロマン・ロランの言う「傑作の森」とよばれる10年間で、ベートーヴェンにとってこの英雄交響曲はそのスタートとなる記念碑的作品であったに違いありません。

英雄交響曲といえばナポレオンとの関係を思い起こされる方も多くいらっしゃると思います。時はフランス革命後、民主化の流れと王制に戻そうとする権力が渦巻きあう時代。そこに現れた英雄ナポレオンに献呈するためにベートーヴェンが作曲したのは事実のようです。ただ最終的にほかの人に献呈した理由は謎で、ナポレオンの皇帝即位を原因としているというのは後世の作り話だとも言われています。現存する自筆譜では、書かれた「ボナパルト」という題名とナポレオンへの献呈辞がペンで荒々しくかき消され、「シンフォニア・エロイカ」「ある英雄の思い出のために」と書き直されている事実を私たちは知るのみです。

曲は今までの交響曲にはなかった革新的構成です。「軽快に生き生きと」とテンポ表記される第1楽章はこれまでの交響曲とは異なりイントロなし、2回の和音だけでいきなり第1主題が始まります。ビートルズの「ハード・デイズ・ナイト」はこれに良く似ていますね。コーダ（終結部）は私の大好きなところで、第1主題のさらなる展

開は心躍らされます。クライマックスではその第1主題がトランペットにより高らかに演奏されますが、それも途中で木管楽器に主題を奪われます。それはあたかも英雄の崩壊を表現しているかのようです。続く第2楽章が葬送行進曲なのは当時ではきっと驚きだったでしょう。Adagio assaiは通常「とても遅く」と訳されますが、Adagioは元来「静かに」、「慎重に」の意味です。中間部では長調になります。第3楽章はそれまでの交響曲では定番だったゆったりとした3拍子のメヌエットに変わって、3拍を早く1カウントでとるスケルツォです。中間部(トリオ)ではその名の通り3本のホルンに

よるファンファーレが印象的です。第4楽章フィナーレは通常ロンド風の軽快な音楽ですが、ここではバレエ音楽『プロメテウスの創造物』の終曲やピアノ曲「エロイカ変奏曲」にも使われているベートーヴェンお気に入りのメロディによる変奏曲になっています。最後は激しく、大きなスケールで終わります。

今回、市響ではドイツのブライトコプフ社から1999年にでた批判校訂版の楽譜を使用して、英雄交響曲に新しい息吹を吹き込みます。どうぞお楽しみください。

本日の出演者

【コンサートマスター】	鎌田 真 貴	【チェロ】	岩田 理 人	【フルート】	木村 真諭紀	【ファゴット】	伊吹 直 子	【トロンボーン】	新井 恵 美
立田 祥 子	佐分利 幸 江	倉澤 倫 子	佐藤 洋 行	遠藤 由紀子	上田 浩 平	坂田 圭 人	佐野 義 人	藪崎 裕 至	
【第一ヴァイオリン】	秦 一 宜	小松 高 明	篠原 梨 恵	菅原 齊					
井田 ひとみ	久田 しげ子	中村 公 一							
大野 道 夫	溝田 範 子	野中 能 久	【オーボエ】						
大橋 一 郎	村上 葉 子	野中 泰 士	二村 直 子	【ホルン】					
亀井 玲 子		日澤 優 二	本間 広 樹	近藤 利 昭	【チューバ】				
桑原 千 恵	【ビオラ】	福原 耕 二		潮見 恵 子	渡邊 鉄 雅				
小林 吉 範	内田 綾 美		【クラリネット】	嶋村 恒 夫					
鈴木 薫	大橋 かおる	【コントラバス】	井垣 貴 嗣	林田 朋 子	【打楽器】				
戸川 悠	小名 康 仁	荒木 夏 奈	一瀬 直 美	藤井 茂 司	都 筑 裕				
根守 弘 和	鈴木 亜矢子	池田 和 正	時田 雄	山内 正 晴	時田 裕				
松岡 寛 親	高野 重 樹	石橋 俊 一	半藤 嗣 人		松村 奈良子				
武藤 敦 子	奈良林 弘 子	上村 啓 介	松村 由美子	【トランペット】	和田 英 恵				
	星 乘 昭	神代 順 子	八木 良 子	安藤 宣 明					
【第二ヴァイオリン】	若 林 繁	菊池 克 彦		池田 伸 一					
石本 恵 理		小林 真 弓		酒井 崇 行					
伊藤 枝里子		花井 さと実		柴田 奈穂美					
上田 佳津子		村上 信 乃							

「悲しいお知らせです」 2007-3-1：市響メーリングリストより要約転載

市響のフルート団員で病気療養中でいらした木村純一さんが、癌のため昨日（2/28）転院先の旭中央病院で午後8時に永眠されたとの事です。

ご存じの方も多いとは思いますが、30年以上も団員として奥さんの木村真諭紀さんと共演され、市響のおしどり夫婦としても知られていました。

最後を看取られた村上信乃先生ご夫妻によるとご本人の強い希望で、昨日午後1時に現在の入院先だった東大病院より、初期から治療を行っていた千葉県の旭中央病院にたどり着くことができ、嬉しそうな顔をされたのが印象的だったということでした。団員仲間であり長年病気の診療や相談に乗ってこられた村上先生ご夫妻（コントラバス、ヴァイオリン）の顔をみてほっと安心されたのでしょうか。そのわずか7時間余り後に亡くなられたということでした。

わたしは何年前、木村さんたちとその旭中央病院ホスピス棟にて一緒に演奏し「僕もそのうちここに入るんだなあ…」と言っていたのを思い出します。

市響では、本日の開演前「ロビー・コンサート」でのモーツァルト/アヴェ・ヴェルム・コルプス（木管合奏版）と、演奏会メインプログラム「英雄」の第2楽章を故木村純一さんに捧げることにいたしました。ここに謹んで故人のご冥福をお祈りいたします。